

自宅が被災して住めなくなった場合、**避難所での生活が長期**に及びます。

※ 避難所での生活は、「阪神・淡路大震災(最長7か月)」「東日本大震災(最長9か月)」

発災から住まいの再建まで

静岡県「避難生活の手引き」P.7-8(一部加工)

大地震発生!

指定緊急避難場所へ避難した

揺れがおさまった... 家は大丈夫か?

大丈夫!

家で生活する

被害なし、または軽微な被害なので家で生活できる

食料・飲料水・トイレなどの備えがある

在宅生活を継続する

在宅生活の継続

日常生活へ戻る

必要に応じて

自宅を修理
(数か月~)

大丈夫じゃない!

避難生活する

大きく損壊、流出、全壊等しており、生活できない

避難生活へ

多様な避難生活

- 避難所へ避難
- 車庫等、敷地内の居住へ避難
- 家族・親戚・友人宅へ避難
- テント泊・車中泊避難

避難生活の継続※

世帯ごとの事情で避難生活場所を移ることもある

避難所生活の様子

▼風呂

自宅が大きく損壊、流出、全壊等しており、避難生活を続けざるを得ない(数週間~数か月)

応急仮設住宅等での生活

多様な住まいの再建

- 建設型仮設住宅
- 借上型仮設住宅
- 公営住宅の一時使用

- 賃貸(公営住宅を含む)
- 自宅を修理
- 自宅を再建・購入
- 災害公営住宅

仮設住宅等での生活を経ずに、自力で住宅の修理・建設・購入をする場合もあります。

プロジェクト
TOUKAI(東海) - 0
倒壊

始めていますか? あなたと家族の 命を守る 地震対策



 **静岡県**

発行元

静岡県 暮らし・環境部 建築安全推進課

TEL.054-221-3292 FAX.054-221-3567

詳しくはこちら

耐震ナビ

検索





もっと早くやっておけばよかった！

わたしが耐震補強をした理由



CASE
1

孫たちを守るため

東日本大震災の際に、孫と孫の友人が自室のベッドの下に隠れていたのを見て、**この家でこの子たちを守れるのだろうかという不安**を抱きました。先代から受け継いだこの家を大切にしながらも、家族が安心して暮らせるように、修繕と一緒に耐震補強を行う決断をしました。 **80代**

CASE
2

一人では逃げられない

亡き夫が昭和56年に建てたわが家が、耐震基準に足りていないことを知っていましたが、今まであまり気にせず暮らしていました。私も高齢となり、**もしも地震が来たら一人では逃げられない**と思い、耐震補強を行うことを決心しました。 **80代**



CASE
3

リフォームと一緒に

知り合いの大工さんに**リフォームを相談したところ、耐震補強も一緒に行いませんか**と、提案されたのがきっかけでした。平屋だから大丈夫だと思っていましたが、耐震診断した結果、自宅の耐震性がなく、強い地震により倒壊することがわかりました。 **60代**

CASE
4

近所に迷惑をかけない

年寄り二人世帯なので耐震補強をするか迷っていましたが、**倒壊して近所に迷惑をかけてもいけない**ので、工事費の割増補助を受けることができるこの際と思い実施を決めました。 **80代**



CASE
5

安心して住める家

老後をこの家で過ごすことを考えたとき、**水回りを使いやすくすることだけでなく、安心して住める家にしたい**と考え、耐震補強を行うことにしました。補強計画を作成してもらい、具体的にどの部分が弱いのか、補強後に間取りがどうなるのかを検討することができました。 **60代**

CASE
6

短期間でできる

約20年前に耐震補強の必要性を感じ、耐震診断を受けましたが、全面的な工事が必要だといわれ費用面で断念しました。しかし、技術の進歩により、工事箇所を絞り、**短期間ででき、費用も抑えられる**ことを知り、耐震補強を進めることにしました。 **60代**



CASE
7

まずは自分から

町内会長として、町内の方に防災対策を呼びかけていました。日頃から「自分の命は自分で守り、危険な所は事前に直す」ことを伝えていましたが、自分の家は築40年。**まずは自分回りを見つめなければ**と思い、耐震診断をしたところ、想像以上に数値が悪かったので、耐震補強に着手しました。 **80代**

CASE
8

心配をかけたくない

夫婦の老後も気がかりになってきました。子どもは都会で暮らしていますが、**子どもになるべく心配をかけないため**、万が一の事態に備えて、思い切って耐震補強をすることにしました。 **60代**



CASE
9

孫へのプレゼント

孫が安心、安全な建物で暮らせるよう私たちからのプレゼントのような気持ちで耐震補強をしました。壁や床などが新しくなり、明るくなったと孫が喜んでくれたので、やって良かったと思います。 **70代**



CASE
10

南海トラフ巨大地震に備えて

東日本大震災の後に富士宮市で起きた地震の揺れで、家から飛び出した記憶があります。東日本大震災、熊本地震と全国各地で地震が続き、南海トラフ巨大地震も必ず来ると確信し、倒壊しなくとも、半壊すれば**長期に渡り避難所生活を余儀なくされる**ため、準備の必要を感じました。 **60代**

CASE
11

避難生活に不安

高齢者の二人住まいで、地震発生時の緊急避難や**苦勞の多い避難所生活を考える**と不安でいっぱいになってきました。耐震補強を実施し、不安解消になればと決断しました。設計の方が相談にのってくださり、作業の方々も礼儀正しく感謝しています。 **70代**



耐震化は未来への投資です！

静岡県内の住宅は
約90%
が耐震化されています



これまでの耐震補強の
助成実績は
27,593棟
です(全国1位)



※令和7年1月末時点